ふれあいの窓
かごしまJRC

発行所
鹿児島県青少年赤十字指導者協議会

事務局
日本赤十字社鹿児島県支部
鹿児島市鴨池新町1番5号
電話（代表）099-252-0600

串良小学校研究発表会（児童総会）の様子

新たな一歩「青少年赤十字」

県青少年赤十字指導者協議会
会長　日高京美

令和六年一月一日に起こった能登半島地震は、正月の団らんを楽しんでいた私たちに悲しい記憶として刻まれました。被災したすべての皆様にお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願うばかりです。自然の猛威の中で人の無力さを感じますが、支援の輪は日本だけでなく世界中に広がっています。いち早く現地に駆け付け、人的・物的支援を続けている日本赤十字社のスタッフの方々の姿をニュースで見て、赤十字の「人道」の精神の下、学校の教育活動を通して学びを進める青少年赤十字活動に携わっている者として、身の引き締まる思いをいたしました。

平成二十八年の熊本地震の折、私は三週間でしたが県教委から派遣され、崩落の危険があるため通学路が封鎖され、全校で移転し近くの中学校の空き教室に間借りして教育活動を再開した御船町の小学校の支援をした経験があります。中学校の体育館は避難所となっており、そこから通ってくる児童もいました。その中で聞かれたのは、学校が再開されたことを喜ぶ声でした。学校に子どもの声が響くことは日常を取り戻すことにつながる。学校の役割の大きさを実感したことでした。

創設一〇一年を迎え新たな一歩を踏み出した青少年赤十字。県内の全ての学校・園で、「気づき、考え、実行する」を合言葉に、優しさや思いやりの心をもって、自ら進んで人の役に立とうとする子どもたちを育む活動が展開されることを願っております。

喜びも悲しみも幾年月

県青少年赤十字賛助奉仕団
副委員長　出水澤孝洋

ここ数年、テレビの報道等で赤十字旗等を目にすることが増えてきたように思います。

日々の青少年赤十字活動や一日トレセン等の活動に参加するとき、子どもたちにその実践目標や態度目標を説いてきました。そして、その日指すところは、赤十字の「命の尊厳」だと伝えてきました。

ところで、薩摩藩の郷中教育では、日頃から議論を重ねて、武士としての心得やとっさの場合に適切に対処できる判断力を身につけることが重視されたといいます。この郷中教育を支えたのは、郷中教育で育った「才（にせ）や長老（おせんし）が己の学んだことを稚児（ちご）たちに伝え続ける制度でした。

青少年赤十字活動は、この郷中教育と似たところがあるように思います。「命の尊厳」の精神を、育成協議会の方々と賛助奉仕団員が、それぞれの役割に基づいて子どもたちに伝え、導いていこうとするところです。

青少年赤十字活動が始まって一世紀が過ぎました。青少年赤十字活動は、「活動すると終わり」ではなく、「絶え間なく活動を続ける」が大切です。

赤十字旗の先にある喜びや悲しみを幾年月も見守り続けていきます。

青少年赤十字

実践目標　**健康・安全、奉仕、国際理解・親善**

態度目標　**気づき、考え、実行する**

青少年赤十字研究推進校 研究発表会 11月30日

令和４・５年度委嘱校　鹿屋市立串良小学校　気づき・考え・実行する力を育む特別活動

本校では、青少年赤十字の態度目標〝気づき・考え・実行する〟に基づいた教育活動を推進しています。この態度目標を意図的・計画的に育んでいくためには、〝なすことによって学ぶ〟ことを原則とする特別活動の充実を図ることが必須であると考えました。

特別活動、特に学級活動と児童会活動は、「児童の、児童による、児童のための活動」であり、主体的・対話的で深い学びを実践する最たるものであると言えます。学級活動の充実は、学級経営の基盤づくりに影響を及ぼし、児童会活動の充実は学校全体の気風づくりにつながります。児童が生き生きと主体的に学び、やる気に満ちた活気ある学校の気風を育み、持続していくために実践を重ねていくことにしました。

本校の児童は、全体的に明るく、素直であり、与えられた課題等に対しては、責任をもってやり遂げる児童が多いのですが、自ら気づき、主体的に考え、実行する力は、不足していました。また、職員においては学級活動の実践が不十分で課題がありました。

そのため、昨年度から話合い活動の充実のためのポイントをまとめた「話合い活動の指導十か条」を組織的に取り組んだり、児童総会の活性化を図ったりしました。具体的には特別活動の充実を図ることで児童が自ら感じた課題に〝気づき〟自らできることややりたいことを〝考え〟学級単位や児童総会などの話合い活動で解決に向けて話し合い、〝実行する〟ことができるようにしました。最初は教師の導きを頼りに進めていましたが、このような経験を組織的に取り組み、重ねることによって青少年赤十字の態度目標に徐々に近づいてきていると思います。

課題はまだまだありますが、今後も学校全体で〝気づき・考え・実行する〟の態度目標実現を目指していきたいと思います。

加盟校（園）数
（２月29日現在）

幼稚園（13）	保育園（26）
認定こども園（19）	小学校（259）
中学校（104）	義務教育学校（６）
高等学校（22）	特別支援学校（３）

計　452校（園）

★令和５年度 新規加盟校（園）
（２月29日現在）

【小学校】南さつま市立大浦小学校
長島町立伊唐小学校
伊仙町立犬田布小学校
（３校）

【中学校】南さつま市万世中学校
（１校）

【義務教育学校】
南さつま市金峰学園（１校）

以上　計５校（園）

「100文字作文コンクール」支部長賞受賞者

令和５年度は、小・中・高等学校から78校 9,318点の応募がありました。
支部長賞と学校賞は以下のとおりです。

支部長賞

小学校(低学年)部門	「ぼくにできること」		
	鹿児島市立西紫原小学校	１年	小牟禮　蓮
小学校(中学年)部門	「命を育てる」		
	鹿児島市立西紫原小学校	３年	鈴木　陸斗
小学校(高学年)部門	「募金から響く音」		
	鹿児島市立名山小学校	６年	德田　妃
中学校部門	「ごみ拾い」		
	鹿児島市立郡山中学校	１年	馬庭　大地
高等学校部門	「誰かの為の配慮」		
	鹿児島情報高等学校	３年	有元　皓夏

学校賞受賞校

阿久根市立阿久根小学校　薩摩川内市立藺牟田小学校　曽於市立岩北小学校
鹿児島市立西紫原小学校　鹿児島市立谷山中学校　鹿児島情報高等学校

令和5年度 青少年赤十字 研修・講習会

小学校一日トレセン

意欲的な小学校トレセン

ほぴあこども保育園　森吉　研一

今年は三年ぶりに実施できると思っていた夏のトレセンが、台風接近のために中止となり、秋の一日トレセンのみとなりました。

十一月二十五日の一日トレセンも、波が高く船が出港しないために三島硫黄島学園の児童一名が参加できませんでした。

十一名の参加となりましたが、どの学校の児童も意欲的に取り組み、協力しながら楽しく学ぶ姿が見られました。

午前に赤十字と青少年赤十字のことについて学び、午後からは、救急法について実技を交えながら学習しました。

閉会式後は、仲良くなった友達と、会話する姿がありました。

中学校一日トレセン

中学トレセンを振り返って

鹿児島市立郡山中学校　國生　宏子

コロナ禍が明け、宿泊によるトレセンが実施できることをスタッフ一同楽しみにしていましたが、天候不良のため、残念ながら今年度も一日トレセンの形になりました。

賛助奉仕団の先生方の御協力をいただき、プログラムとしては久しぶりに非常食のハイゼックス体験も行うことができました。

グループワークの竹ひごタワーでは、ホームのメンバーとアイディアを出しながら工夫して取り組み、この活動で一気に参加者間の距離が縮まりました。

朝の緊張した表情がプログラムごとに和らぎ、そして最後にはとても清々しい表情で会場を後にする参加者の姿が印象的です。今回の学びを、今後の生徒会活動に生かしてくれることを大いに期待しています。

指導者講習会

指導者として

ほぴあこども保育園　福元　浩子

七月一日、八月二十三日と二日間に分けて開催した指導者講習会は、いずれも各校種からの参加があり充実したものとなりました。

「指導の手引き」を現場で活用してもらうためのしかけづくりと、例年通り「スタッフの掘り起こし」を意識した講習でした。

スタッフからは要所要所で「指導の手引きを参考に…」という合言葉が飛び交い、また、グループワークでは「青少年赤十字とSDGs～気づきのアイデア～」等、新しい試みもなされました。参加者たちからは、もっと学びたかったという旨の感想が聞かれ、スタッフの視点や工夫の大切さを実感しました。

課題となっている〝スタッフ〟へつながることを願い、「さらに学びを深めたい」「現場で実践してみたい」と思ってもらえるような講習を計画していきたいと改めて感じる講習となりました。

■薩摩川内市立育英小学校

●育英小で取り組んでいること

育英小では、六年生が中心となり、「100周チャレンジ」やボランティア活動などの朝活動に取り組んでいます。100周チャレンジは、朝、7時50分になると放送委員会の放送で全校児童が校庭に出てかけ足を行う活動です。その後、石ころ拾いや落ち葉集めなど学校をきれいにするためのボランティア活動を行います。

また、本を1年間に100冊借りることを目標とした「100冊チャレンジ」や、学校内でいじめをなくすことを目的とした「いじめをなくそう集会」なども行っています。100冊チャレンジでは、100冊達成するごとに、図書委員会の作成した「しおり」をもらうことができるので多い人は600冊以上借りています。いじめをなくそう集会では、全児童がいじめをなくす標語を考え、学級の代表に選ばれた標語は集会の中で紹介をされます。いじめをなくす「5つの誓い」を確認したり、仲間作りゲームを行ったりすることで、全校でいじめについて考える良い機会になっています。

他にも、学期に1回「思いやりの心を育てる日」として、昼休みに他の学年とレクリエーションを行う活動もあります。この日は、上学年が下学年をリードして「けいどろ」や「鬼ごっこ」を行うことで良い交流の機会となっています。

このように、育英小ではみんなが笑顔になる取り組みがたくさんあるので、みんな毎日ワクワクしながら過ごしています。これからも高学年が中心となりみんながニコニコ笑っている育英小学校を創っていきたいです。

■阿久根市立脇本小学校

●郷土の宝を守るために

本校の近くには、徒歩15分程度でいける下村海岸があり、この下村海岸には、ウミガメが産卵に訪れます。

本校では、この郷土の宝を守るために、毎年五月に、春の一日遠足の活動の中で「下村海岸美化活動」に取り組んでいます。これは、1年生から4年生、6年生の児童と教職員が共に行います。海岸清掃の時間には、代表児童によるマイクロプラスチックの回収実験を行い、小さなプラスチックや、粉々になる前の親指ぐらいのプラスチックの破片を見つけました。その他の児童は海岸のゴミを友達と協力しながら拾い、分別しました。清掃前には、NPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会の方々にシロチドリの卵を紹介していただいて、環境保護に対する意識を高めながら活動しました。

他にも、3年生の総合の学習では、環境保護やウミガメ保護について学習する活動があり、今年度は、かごしま水族館主催の「かごしま子どもウミガメサミット」に参加し、これまでの学習をまとめて発表しました。

このように、脇本小学校では、環境の素晴らしさや身近な自然が貴重な資源であることを学ぶことで、郷土の宝であることの意識付けを行いながら、様々な環境保護活動に取り組んでいます。これからも地域と共に自然を守っていくことを目指していきます。

■出水市立出水中学校

●気付き　考え　実行する出水中

本校は、「気付き　考え　実行する出水中」をもとに、ペットボトルキャップ回収・各種募金活動・書き損じハガキ回収・笑顔いっぱいあいさつ運動・環境整備ボランティア・コンタクトレンズケース回収などの活動に取り組んでいます。また、昨年度から台湾の学校との交流が始まっています。

出水中学校がある出水市は、台湾の埔里鎮（プーリーチン）と姉妹都市盟約を締結し、交流を行っています。昨年度は、学習した英語を使って、インターネットの画面越しに台湾の大成國民中學の生徒と交流をしました。そして、今年の7月には大成國民中學の代表生徒が、出水中学校へやって来てくれました。それまで直接海外の生徒と交流することがなかった私たちは、はじめ緊張していましたが、英語や台湾語でコミュニケーションをとりながら、一緒に机を並べて授業を受けたり、バレーボールを楽しんだり、まちテラスの竹灯籠を一緒に作ったりすることを通して、海外の人と関わることを楽しむ良い機会となりました。

そして、今度は12月末に出水中学校から代表生徒8名が台湾に行く予定になっています。大成國民中學で授業を受けたり、ホームステイをすることで、互いの文化を尊重し、台湾の人と友好的な関係を築きながら、この経験を活かして将来的には海外でも活動してみたいと思っています。

■鹿児島情報高等学校

●カンボジア研修

プレップ科2年
赤崎　温樹・市禾　直也・川畑　凜斗

本校のプレップ科では、カンボジアへの海外研修プログラムがあります。それに絡めて、私たちは、「カンボジアのためにできること」を考え、研修に行くまでに何らかの形にします。私たちのチームは当初、空き缶のプルタブを集め換金し、そのお金で青いボールペンを買う計画を立てました。ところが、プルタブは1キロ集めても約60円にしかならないことを知り、その計画を断念しました。

では、他に何かカンボジアのためにできることはないのかと調べたところ、三角巾を使った応急処置を大庭先生が教えてくださることを聞き、赤十字からいただいた三角巾を使い、何種類かの応急処置の仕方を学びました。

カンボジアの村では、火傷に歯磨き粉をぬったり、ケガや病気を祈祷で治すなど、正しい処置法が教育されていないとのことでした。そこで、私たちは、足首の捻挫や、腕をケガした場合の応急処置法を実演し、実際に現地の方にも一緒にやっていただきました。三角巾がない場合でも、現地の人が持っているクロマー（というスカーフ）を使っても処置することができました。カンボジアの方は、とても器用で、熱心に応急処置に取り組み、喜んでくださいました。

この経験を活かして、人の役に立つことに気づき、考えて実行できたらなと思います。